

# 都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業

## 企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進

東京都教育委員会は、平成28年2月に「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定しました。この計画は、都立高校が生徒を「真に社会人として自立した人間」に育成することを目的としています。その目標として、「次代を担う社会的に自立した人間の育成」を掲げ、具体化するための取組の方向「企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進」の一つに、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」が位置付けられています。

## 「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」とは



企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等と連携し、都立高校生が社会や職業について、実感をもって理解しながら、将来、社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身につけることができる教育プログラムを実施しています。

本事業は、今年度で4年目となり、60を超える支援団体等の協力を得て、多くの都立高校で教育プログラムが活用され、生徒の学習意欲やコミュニケーション力の向上が図られるとともに、「働くこと」などについて具体的に考えるようになった。」という声が高校から寄せられています。

## 本事業で進めるキャリア教育を通じて育成する力 —「基礎的・汎用的能力」—とは

### ★ キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達<sup>※</sup>を促す教育

※ キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

### ★ キャリア教育を通して育成することが期待される「基礎的・汎用的能力」

→分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力

#### 人間関係形成・社会形成能力

(例) 他者の個性を理解する力、他人に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等

#### 自己理解・自己管理能力

(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等

#### 課題対応能力

(例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

#### キャリアプランニング能力

(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択・行動と改善等

★ キャリア教育の実施に当たっては、社会や職業にかかわる様々な体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子供・若者に自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を得させることが重要である。

※ 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)より

## 企業・NPO等支援団体の専門性を生かした 100以上の多様な内容の教育プログラム

「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」において、高校生が、「基礎的・汎用的能力」を身に付けるとともに、実際の社会の姿を学び、より良い生き方を選択し、行動していく意欲を持つことができるように、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」<sup>※</sup>の会員団体である企業や大学・NPO等と学校との連携を進めながら、下表に掲載しているように、教育プログラムの充実を図っています。

また、実施に当たっては、必ず事前に学校と支援団体とで打合せを行い、キャリア教育の目的、年間計画の位置付け、生徒の様子、活用する時期、前後の学習活動等を踏まえて、教育プログラムを効果的に活用できるように、授業当日に向けての内容や進行、教材等をアレンジしながら、学校ニーズに合わせて実施しています。

### ※ 地域教育推進ネットワーク東京都協議会

企業・大学・NPO等とのネットワークをつくり、子供たちに豊かで、多様な体験学習活動が提供できるようにサポートし、活性化していく仕組みづくりを目指して、東京都教育委員会が平成17年8月に設置しました。現在、500を超える企業・大学・NPO等とのネットワークへと広がっています。

### ★ 社会人と出会い、話し、働くことの意義や役割を学び、考える

・各教室に社会人が入り、生徒と質疑応答がしやすい形での講演  
・社会人講師とファシリテーター(進行役)が各教室に入り、社会人から話を聞き、ファシリテーターがインタビューの見本を見せる。小グループでインタビュー体験  
・体育館等の広い会場に、20名程度の社会人がコーナーを作り、生徒は3名の社会人から25分ずつ話を聞く。事前学習時に社会人のプロフィールを紹介し、生徒は、興味のある講師を事前に選んでおく。  
・新入社員から、高校・大学時代の生活や仕事を選んだ理由、現在の仕事についての話を聞く。  
・社会人と生徒代表がパネラーとしてディスカッション。出された課題についてグループで話し合い、発表する。



### ★ 働くための基礎知識を学び、将来設計を考える

・お金について考える。  
・ライフプランや将来の家計シミュレーション、経済や金融の仕組み、株式の仕組み  
・労働法、賃金、保険等について学ぶ。



### ★ 専門学校・大学等の進学先について学ぶ

・大学生から、実際に使っているテキスト、時間割、写真等を活用した大学生活の紹介と将来の夢等について聞く。  
・大学の通常の授業に参加する。  
・就職内定者から、高校時代の過ごし方、大学の選び方等を聞く。  
・複数の専門学校が設置した職業別ブースで、職業人の指導を受けながら、様々な職業を体験する。



### ★ コミュニケーション・スキルを向上させる

・ゲーム的な内容から、小グループでの発表まで複数回で取り組む。  
・いくつかのゲームで身体を動かし、短い演劇のシーンを創作し、発表する。



### ★ 課題対応能力を向上させる

・実在の企業から出されたミッションに、チームで取り組み、企画を提案する。  
・模擬会社を作り、企業活動を体験。社会人が社外取締役としてサポートする。  
・学校や地域の課題を調べ、解決策を話し合い、発表する。



### ★ 学校外でのキャリア教育プログラム(体験活動)に参加する

・企業を訪問し、見学と課題解決プログラム等を体験する。  
・支援団体が実施する高校生対象のプログラムに参加する。

## 社会的・職業的自立支援教育プログラムの紹介

このプログラムには、キャリア教育を通じて育成する能力として例示されている、コミュニケーション・スキルや課題対応能力の向上を目指していくもの、学ぶこと・働くことの意義・役割の理解等を深めていくもの、自らの進路・職業・将来を考えていくきっかけを提供するものなど、多様な内容のものがあります。ここでは、

4プログラムを紹介します。  
学校として実施しているキャリア教育の目的やねらい、年間計画等を踏まえ、生徒の状況に合った内容の教育プログラムを複数組み合わせて活用するなど、系統的に位置付けていくことで、その効果が高まっていきます。

コミュニケーションは、人生で役に立つものだ実感した。  
この授業を通して、自分のことも他人のことも分かった気がした。

- ★ 人間関係形成・社会形成能力
- ★ 自己理解・自己管理能力 → コミュニケーション力の向上を目指して

### プログラム名

からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」[2コマ連続×3回以上]  
(NPO法人ドラマケーション普及センター)

コミュニケーション能力、表現力の向上を目的として、100種類以上のワークを組み合わせ、身体を使ったコミュニケーションを経験するプログラムです。

- (1) 講義「コミュニケーションの必要性」「会社が求める人材とは」(初回のみ10~20分)
- (2) ワーク(2コマ×3~6回)①~④までの各項目で、100種類以上のメニューを用意

- ①自己認知・他者理解 → からだを通して、自分・他者に気付いていく。感性(五感)を刺激し、「やる気」を喚起する。
- ②コミュニケーション力を高める → 自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちを受け取る。
- ③人前になる積極性を身につける → 簡単な表現遊びにより、周りから見られることに慣れ、表現の楽しさを実感する。
- ④頭の中で即興的に言葉を紡ぐ → 相手の話を聞くことの大切さに気付く。自由な発想力による言葉の構成力を高める。

- (3) 目的により、2分間スピーチを最終回に行う。 → 一人ずつ、クラス全員の前で、自分の名前と課題を2分間話す。

※「ロールプレイによる模擬面接」(生徒が面接官、受験者、観察者の三つの立場を体験)のプログラムの追加実施も可能



### 生徒の感想

●「人はたくさんの考えを持っていて、自分が持っていない考えを持っている人たちが集まるから楽しい」ということと、「人が加わることで考えが広がっていく」ということ。自分の中の考えもこの時間で増えました。たくさんのごんごに対して視野を広げて、いろいろなことに挑戦していきたいです。

### 教員の感想

●生徒の自主性、協調性、表現力の向上や他者との関係を築く手段としてとても良い。文化祭や体育祭でクラスが一丸となった時に、その効果を実感しました。

- ★ 課題対応能力 → チームで課題解決に取り組む

プログラム名 チームコンセンサス・ワークショップ[2コマ連続×1回]  
(NPO法人16歳の仕事塾)

グループワークを通じて、自分の考えや意見をしっかりと他人に話し、ディスカッションしながらチームとして最適解を出すことが大切であることを学ぶ課題解決型のプログラム。活発に話し合ったチームが良い結果を生み出すことを体験できるワークショップです。

- (1) 5、6名が一つのチーム。客船が沈没し、飛び移った救命ボートが漂流中という設定の問題文を読む。チーム全員が生き残るためにはどうすればいいかの、提示されている道具の中から必要と思う物の優先順位を付ける。まず、個人で考えて答えを出し、その後、チームで話合っ、一つの解答にまとめる。
- (2) 各チームの解答を発表する。
- (3) 正解の発表と解説を行い、個人及びチームの解答と正解との誤差をそれぞれ出す。活発で良い話し合いをしたチームは、チームの誤差が個人の誤差より小さくなる。
- (4) チームでの振り返りとワークシートの記入 → 話し合って感じたこと、印象的な場面等について、個人ワークで付箋に書き出し、それをチームで共有する。時間が取れる場合は発表。全体のまとめ

### 生徒の感想

●思いもよらぬ意見が出てきて、仲間の大切さが分かった。意見を一致させることは難しいけど、ある程度人数がいる方が意見の幅が広がる。討論する時は意見をしっかりと交換し合える雰囲気作りをしようと思った。

### 教員の感想

●あまり発言しないような生徒も積極的に議論に参加しており、普段見られない一面も見られてとても良かった。今回、少人数で経験した議論の進め方を、クラス全体での話し合いにも生かしていければと思う。  
●合意形成の難しさを体験できたことが良かった。



皆それぞれ意見が違っから、より深い話ができるということに気付いた。

- ★ キャリアプランニング能力 → 学ぶこと・働くことの意義や役割を考える

### プログラム名

未来のヒントに出会う 社会人アドバイザー交流会[1コマ×1回+2コマ連続×1回]

(株)トップアスリート 13歳のハローワーク公式サイト編集部

体育館等の広い会場に、20名前後の様々な分野で働く社会人が、コーナーを作り、生徒(8名~15名程度)が、3名の社会人から25分ずつ(3ラウンド)話を聞き、質疑応答をしていきます。社会人との交流を通して、職業観・人生観を醸成するとともに、社会で働くやりがいや感動、苦労等のリアルな話を聞くことで、自分の進路や職業を考えるきっかけを提供するプログラムです。※複数の教室で実施する場合もあります。

- (1) 事前学習(1コマ) プログラム「社会人アドバイザー交流会」の説明、交流のマナー・心構え、社会人の発表、ワークシートや当日の動き、模擬交流会(先生をモデルに、話を聞き、質問を考えてみる。)
- (2) 交流会(2コマ) 25分程度+10分のインターバル×3ローテーション(生徒が社会人のところを回ります。)

### 【社会人との交流】

・自分の仕事について ・なぜ、その仕事を選んだのか、就いたのか ・高校生時代について (10分のインターバル)  
・生徒は、交流した社会人へ宛てたメッセージカードを記入する。

※ 事後学習(1~2コマ)を取り入れることも可能 社会人との交流会の振り返り、簡易ポスターの作成、クラス内発表など



今の自分が将来に繋がるのだと感じたい。できることから頑張りたい。

### 生徒の感想

●やりがいを感じられる職業に就きたいと思う。また、どんな無理難題でも挑戦して諦めずに頑張ることを心掛けたいと思った。  
●相手のことを考えて、自分の仕事を楽しく話そうに話そうことができる人になりたい。

### 教員の感想

●多くの生徒から、純粋に「楽しい」という声や表情を感じた。社会人の実体験の話は心に響くのか、思った以上に、熱心に社会人の話を聴いていた。  
●生徒たちが、社会人への文章でのフィードバック(メッセージカード)も熱心に取り組んでいたことは、驚きであった。  
●多様な社会人・職業人たちと触れ合う機会が少ない生徒たちにとって、とても有効な機会となった。

- ★ キャリアプランニング能力 → 自らの進路・将来を考えるヒントをつかむ

- ★ 人間関係形成・社会形成能力 → 見知らぬ人や異世代とのコミュニケーションの取り方を学ぶ

### プログラム名

職業人へのインタビューワークショップ [2コマ連続×1回]

(NPO法人16歳の仕事塾)

職業人へのインタビューを通して、職業人自身の高校生時代の話や仕事を選んだきっかけ、仕事をする上で大切なことなどを知り、自らの将来を考えるヒントを得るとともに、インタビューの仕方等を学ぶことで、見知らぬ人や異世代とのコミュニケーションのとり方を学んでいくプログラムです。

- 各クラスに、職業人とファシリテーターの2名を配置して授業を進行

- (1) 職業人からの授業 「高校時代から、今の仕事をするまで」  
→ 高校生の頃の生活、取り組んでいたこと ・その後、今の仕事を選択した理由
- (2) インタビューの見本を見る。  
→ ファシリテーターが職業人にインタビューし、インタビューの見本を見せる。
- (3) インタビューの仕方を学ぶ。 → ファシリテーターから、インタビューのマナーやポイントを学ぶ。
- (4) 個人ワーク → 職業人にインタビューしたいことを付箋に書く。
- (5) グループワーク → グループで話し合い、質問項目を決める。グループごとに、職業人にインタビューをする。
- (6) 全体の振り返り(まとめ、職業人からのコメントなど)

### 生徒の感想

●小さなきっかけから自分の職業を見つけることもあるのだと思った。大変なことたくさんあるのだけれど、努力してやって、それを後でやってよかったと思えるようになれるなら、自分も小さなことから努力していきたいと思った。講師の話方や内容から、とても誇りを持って仕事をなさっているのだなあと感じた。  
●勉強ができるだけでは、社会人になってからはやっていけないということがよく分かったので、人としっかり話せる人になろうと思った。

### 教員の感想

●講師やファシリテーターの関わりで、生徒の良さを引き出していたり、質問も深められていった。社会に出てからのコミュニケーション力の大切さも伝えていたときでも良かった。  
●生徒たちは将来に向け、考え出したところなので、今回の講師の話がよい材料になるであろう。講師やファシリテーターから褒められ、生徒が変わっていく姿を見て感動した。



普段、触れることのない職業のお話を聞いて、身近に存在しているのに気付いていない職業がまだまだたくさんあることに気が付いた。